宮古島（沖縄）産サキシマバイカに関する 若干の知見

高良 鉄夫（琉球大学農学部）

Some Observations on a Snake found on Miyako Island, Okinawa. Tetsuo TAKARA (College of Agriculture, University of the Ryukyus).

The subspecies *Dinodon septentrionalis multifasciatus* was named by Dr. M. Maki in 1931. Hitherto, this subspecies was reported only from Ishigaki and Iriomote Islands. In this paper, it is newly recorded from Miyako Island, and descriptions of scale characters and coloration are given.

宮古島の未記録種サキシマバイカについて、若干の新知見を得たので報告する。

サキシマバイカ

Dinodon septentrionalis multifasciatus Maki

Dinodon septentrionalis multifasciatus Maki, Mon. Snakes Japan, 1931, p. 127, pl. 47, text-fig. 83 (Ishigaki-jima). —Takara, Acta Herpet. Japon., 3 (2-3), 1969, p. 19, fig. 1 (Iriomote-jima).

サキシマバイカは、牧茂市郎博士（1931）によって、石垣島から記載されたもので、従来、石垣島産については、牧（1931）、安間（1976）、西表島産については高良（1969）の報告がある。そのほか柴田保彦氏によって石垣島から1個体、また千石正一氏らによって西表島から3個体が採集されていると聞く（未発表）。

1978年8月10日、宮古島平良市熱帯植物園で、キャンプ中のガールスカウト・リーダー又吉俊子が採集したマダラヘビ属 *Dinodon* の1種は、精査の結果、サキシマバイカに同定されるので、宮古島を新分布地として報告し、併せてその特徴を記述する（第1図）。宮古島産は、従来知られた標本よりも大きく、しかも生体であったので、その特徴を明確につかむことができた。全長800mm、尾長190mm、（♀）。体鱗17列、後方では15列。背中央部の9列、後方では11列に弱い竜骨を備える。眼前板1枚、眼後板2枚。上唇板8枚、そのうち第3～第5は眼に接する。腹板234枚、尾下板113対。体背面は淡褐灰色で、黒褐色横斑は胴部に66、尾部に28を数える。同横斑は体の前半で5～6鱗長、後半では、おおむね3～4鱗長を覆う。横斑は後方に至るにつれて左右に二分し、ほぼ交互に並ぶものもある。腹面は黄白色を呈する。

本個体のほかに1978年8月13日、当山昌直が西表島古見で採集した1標本を、同時に検討したので、その結果も併せて報告する（第1表参照）。

八重山群島及び宮古群島産サキシマバイカの測定概括は、次の通りである（第1表）。

Fig. 1. *Dinodon septentrionalis multifasciatus* from Miyako-jima
(coll.: T. Matayose, Aug. 10, 1978).

Table 1. Summary of measurements and scale characters.

Localities	*Ishigaki-jima	Iriomote-jima	**Iriomote-jima	Miyako-jima
Total length	695mm.	320mm.	814mm.	800mm.
Length of tail	170mm.	72mm.	194mm.	190mm.
Ventrals	229	230	231	234
Anal	1	1	1	1
Subcaudals	106	111	115	113
Scale rows	17	17	17	17
Preocular	1	1	1	1
Postoculars	2	2	2	2
Temporals	2+3+3	2+3, 2+2	2+3, 2+3	2+3, 2+3
Supralabials	8	8	8	8
Supralabials entering eye	Third to sixth	Third to fifth	Third to fifth	Third to fifth
Cross-bars	60+32	71+37	80+34	66+28
Sex and age	Female	Young	Female	Female

Note: *Data from M. Maki (1931). **Collected by M. Toyama (1978).

宮古島のヘビは従来、6種知られている。そのうち沖縄群島との共通種は2種。八重山群島との共通種は5種（沖縄群島との共通1種を含む）であったが、今回のサキシマバイカを加えると、八重山群島との共通種は6種となる。

八重山群島との共通種が多くなったことは、宮古群島と八重山群島の地史が、一層緊密な係わりがあることを提示するものである。

本文をまとめるにあたり、西表産サキシマバイカの標本を借覧させて頂いた当山昌直氏ならびに労を煩わせた原幸治、柴田保彦の各氏に対し、深く感謝の意を表する。

参 考 文 献

- Maki, M. 1931. A monograph of the snakes of Japan. Daiichishobo, Tokyo.
- 中村健児・上野俊一 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑 保育社.
- 高良鉄夫 1962. 琉球列島における陸棲蛇類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報告(9): 1—202.
- 1969. 八重山群島(琉球)産ヘビに関する若干の知見. 爬虫両棲学雑誌3(2~3): 19—21.
- 安間繁樹 1976. 原生林の間に生きるイリオモテヤマネコ. 日本の野性動物6, 汐文社.